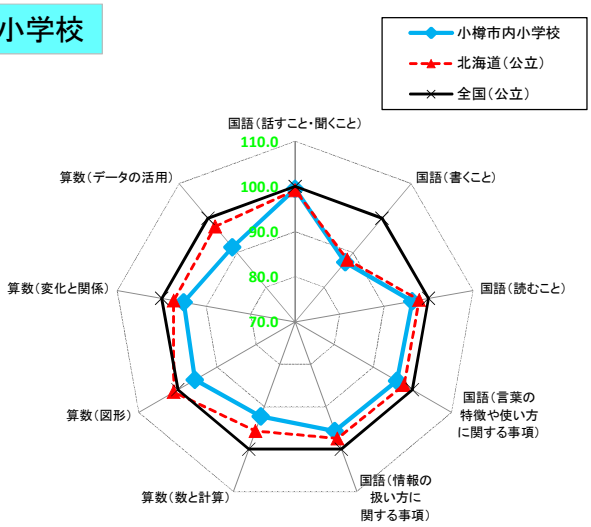
■小樽市内の状況及び学力向上策　（小学校数：17校 、児童数：634人）（中学校数：12校 、生徒数：625人）

【教科全体の状況】

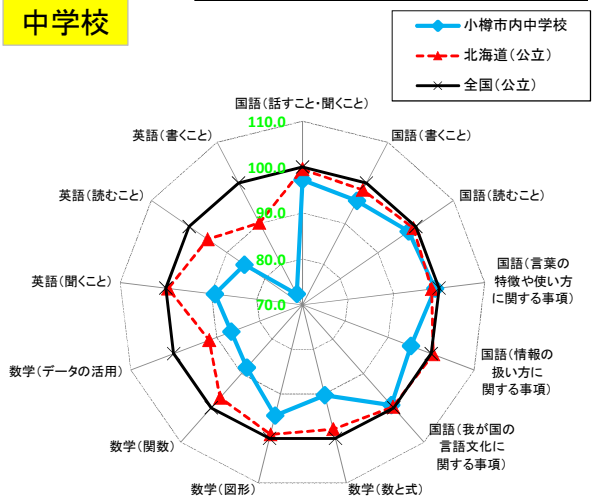
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	68
算数・数学	58	46
英語	－	39

小学校

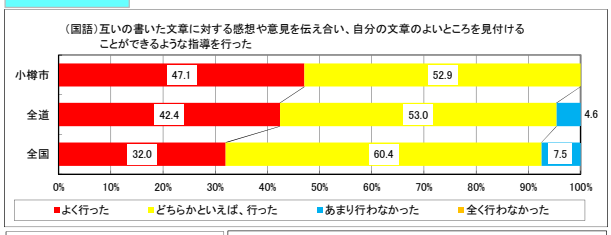


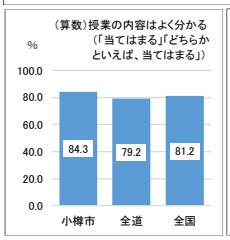
中学校

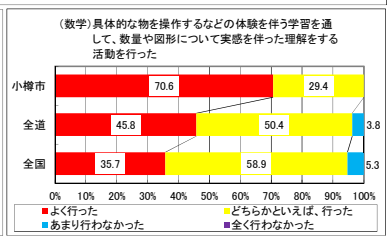


【質問紙の状況】

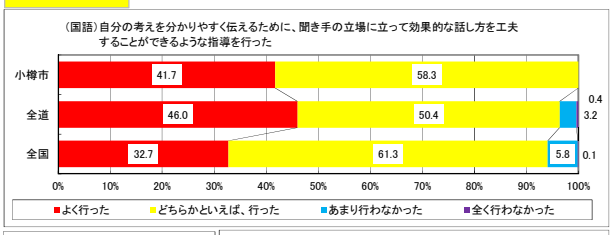
小学校

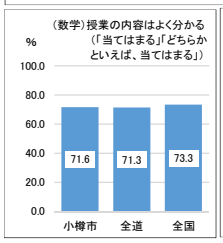


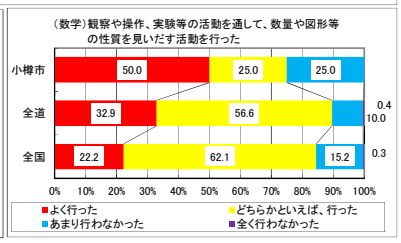




中学校







【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。	国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かると肯定的に回答した生徒の割合が全道を上回ったと考えられる。

【小樽市の学力向上策】

◎　「小樽授業づくりの5つのSTEP！！」に基づく、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
◎　市内全小学校第3・5学年、中学校第2学年を対象とした標準学力調査の実施と、その結果を活用した授業改善の推進
◎　「小樽市小中一貫教育基本方針」に基づく、義務教育9年間を見通した教育課程の編成や乗り入れ授業等の実施
◎　1人1台端末の効果的な活用を目指した新しいかたちの学びの授業力向上推進事業（道教委事業）の巡回指導の実施
◎　「小樽市教育委員会研修プログラム」の開催等を通した教員の指導力向上

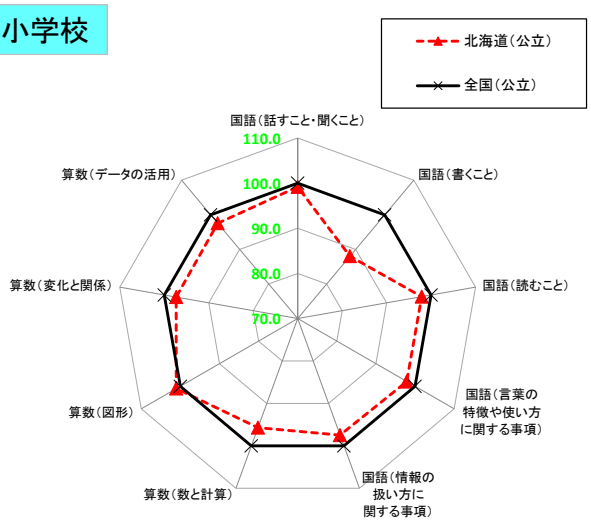
■島牧村内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：5人）（中学校数：1校 、生徒数：5人）

※児童生徒数が少なく、個人の結果が特定される恐れがあるため、小・中学校の教科及び児童生徒質問紙のデータは掲載していない。

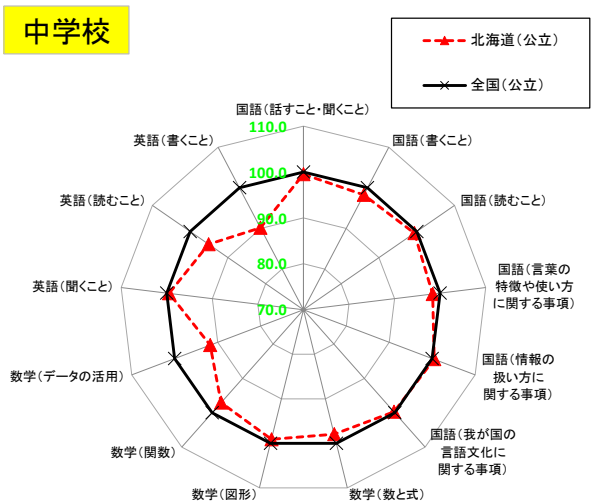
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

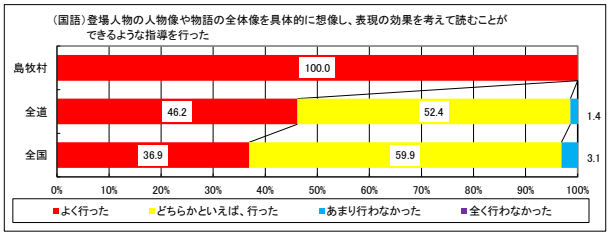


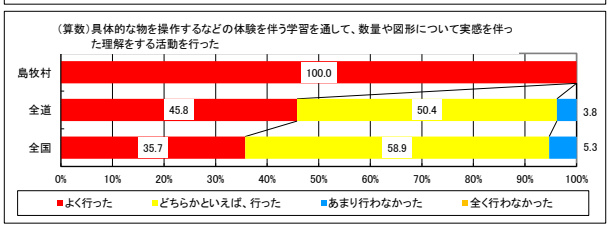
中学校



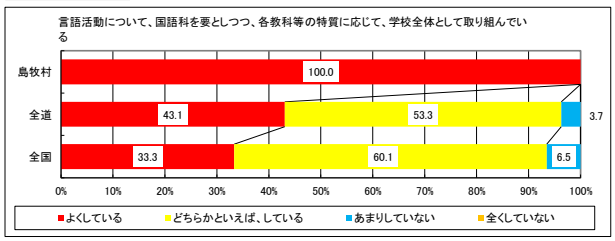
【質問紙の状況】

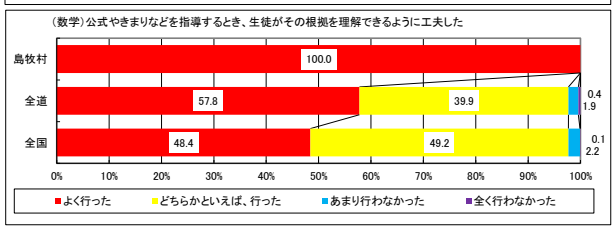
小学校





中学校





【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。	言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、授業改善が図られたと考えられる。
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。	数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、授業改善が図られたと考えられる。

【島牧村の学力向上策】

◎　個に応じた指導の充実を図るとともに、小学校における朝・放課後学習、夏季・冬季休業期間の学習サポート、中学校における放課後サポート、夏季・冬季休業期間の学習会などの実施

◎　小・中学校が連携し、算数・数学や外国語の学力向上に向けた乗り入れ授業、オンライン授業などの推進

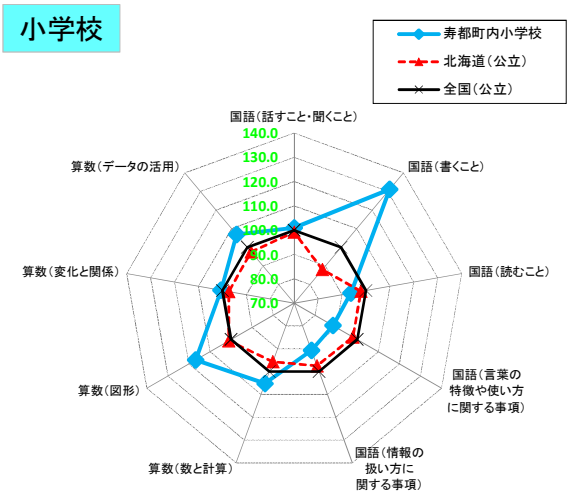
■寿都町内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：20人）（中学校数：1校 、生徒数：14人）

【教科全体の状況】

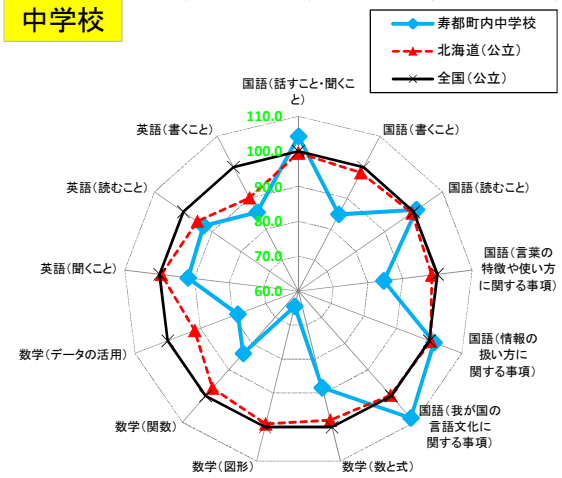
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	68
算数・数学	67	42
英語	－	42

小学校

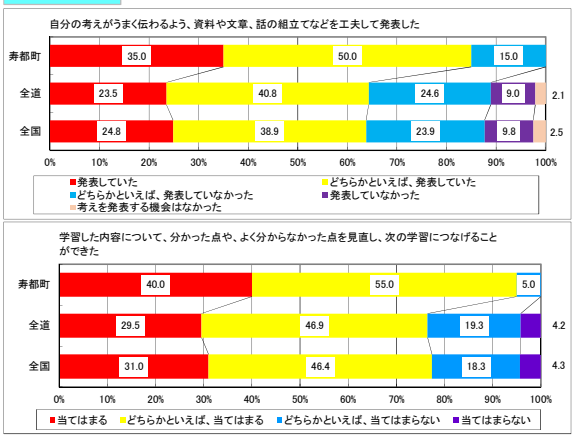


中学校

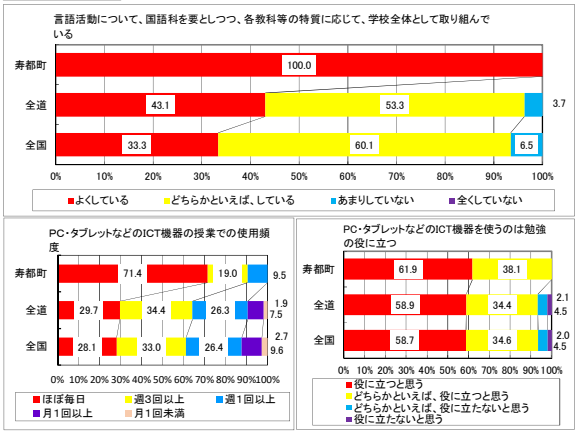


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する授業を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、授業改善が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域、「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげるように指導したことにより、授業改善が図られ、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	PC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日使用したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【寿都町の学力向上策】

◎　学習支援員の配置による習熟度別少人数指導等の推進
◎　家庭学習の手引や生活リズム調査による家庭学習習慣の定着を図る取組の推進
◎　CSによる地域人材を活用した学習や地域全体が一丸となって子どもたちの成長を支える取組の推進
◎　小中高連携推進委員会による乗り入れ授業を通した授業の質の向上、各校の授業状況を共有し、スムーズな校種間移行に向けた体制の推進
◎　1人1台端末等、ICT機器による授業での効果的な活用や地域資源を生かした体験活動の促進

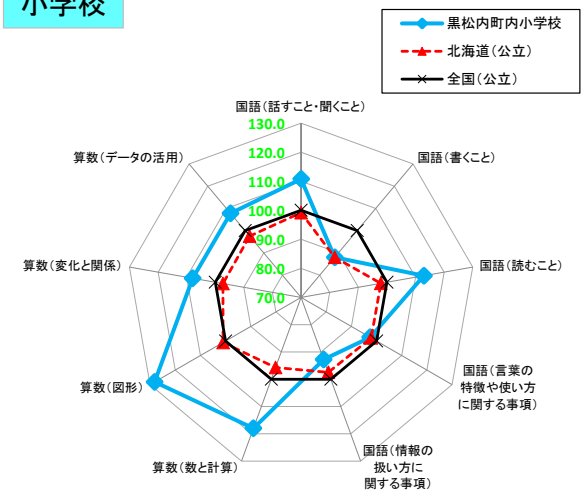
■黒松内町内の状況及び学力向上策　（小学校数:2校 、児童数:17人）（中学校数:2校 、生徒数:20人）

【教科全体の状況】

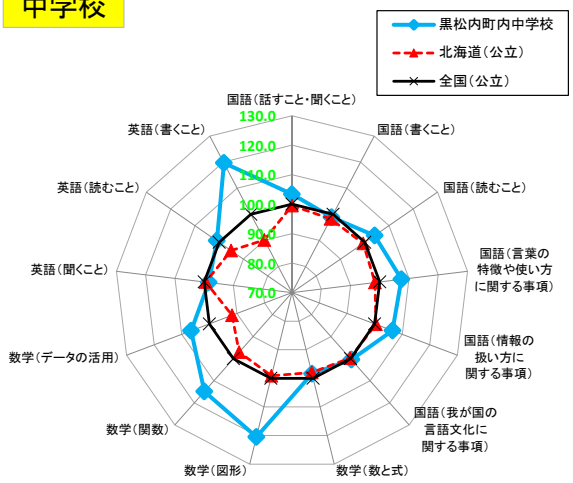
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	73
算数・数学	72	55
英語	－	47

小学校

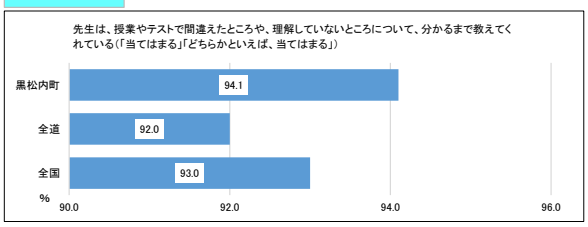


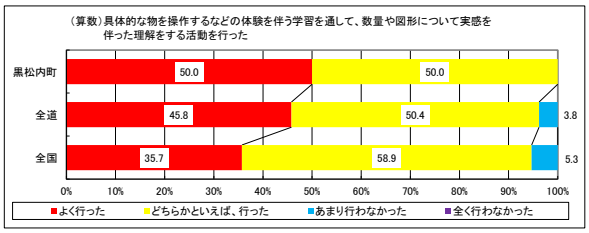
中学校



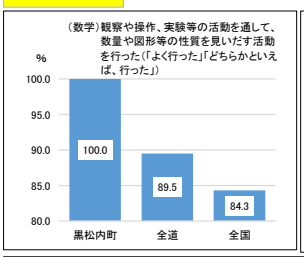
【質問紙の状況】

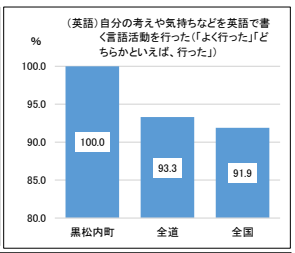
小学校

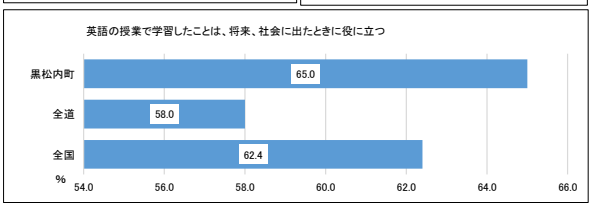




中学校







【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えたことにより、学習内容の定着が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の「図形」「関数」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	英語の授業において、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行ったことにより、授業改善が図られ、英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の「読むこと」「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【黒松内町の学力向上策】

◎　学力の定着と学習意欲の向上のための町営塾の運営
◎　国際交流協力員等による外国語活動や英会話教室の実施
◎　児童生徒の実態に応じたICTを活用した授業づくりの推進
◎　児童生徒個々の実態に合わせた基礎学力の定着と学習意欲の向上を図るため、学習支援員及び特別支援教育補助員の配置

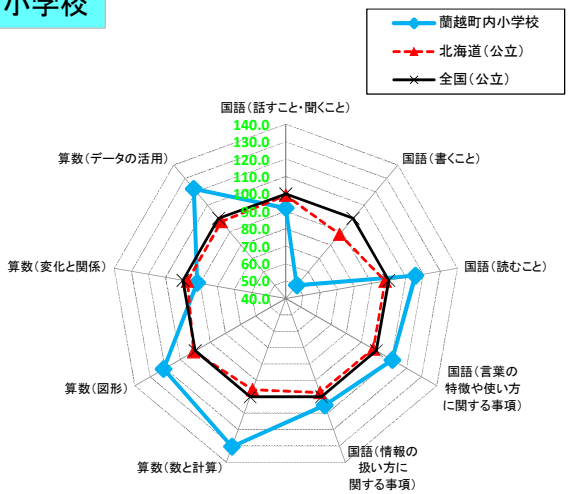
■蘭越町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：15人）（中学校数：1校 、生徒数：24人）

【教科全体の状況】

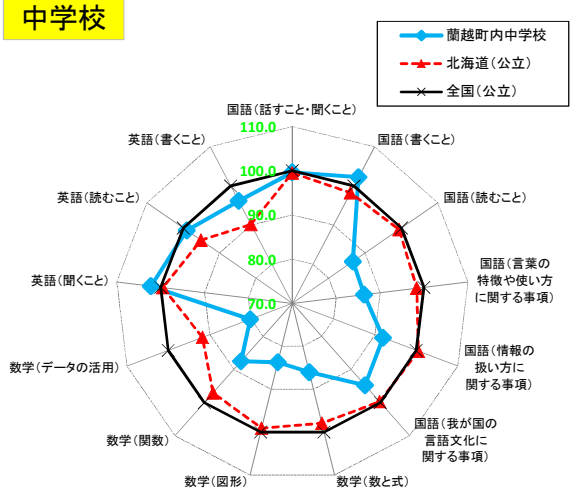
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	66
算数・数学	73	43
英語	－	46

小学校

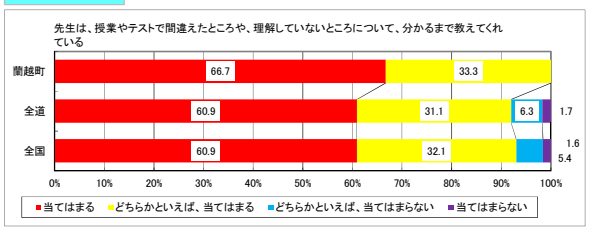


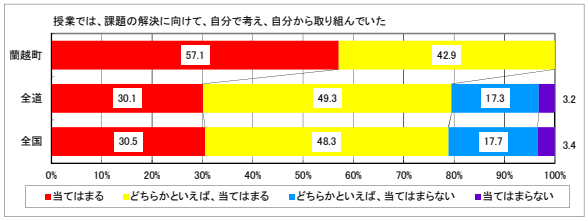
中学校



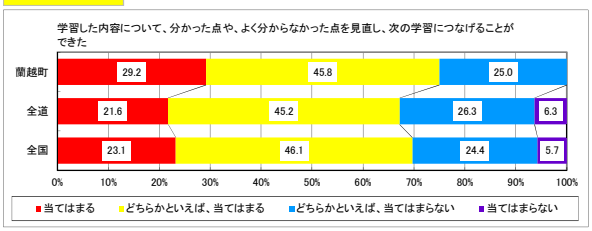
【質問紙の状況】

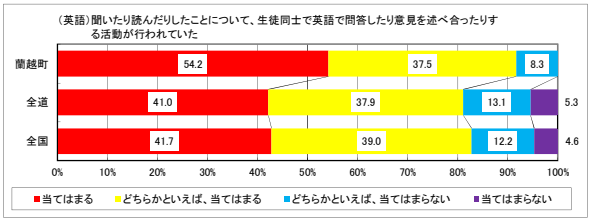
小学校





中学校





【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
先生が授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えたことにより、学習内容の定着が図られ、国語の「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげるように指導したことにより、学習内容の定着が図られ、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むように指導したことにより、学習内容の定着が図られ、算数の「数と計算」「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動を取り入れたことにより、授業改善が促進され、英語の「聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【蘭越町の学力向上策】

◎　全国学力・学習状況調査の結果を分析し、授業改善及び児童生徒の学習への関心や意欲を高める取組の支援
◎　生徒の習熟の程度に応じた指導の強化ときめ細かな学習指導の充実
◎　校長、教員に助言を行う学校教育アドバイザーの配置
◎　小・中学校で学習規律を統一し中学校進学時においても学習に取り組みやすい環境の整備
◎　家庭学習の習慣化の定着へ向けた取組の推進

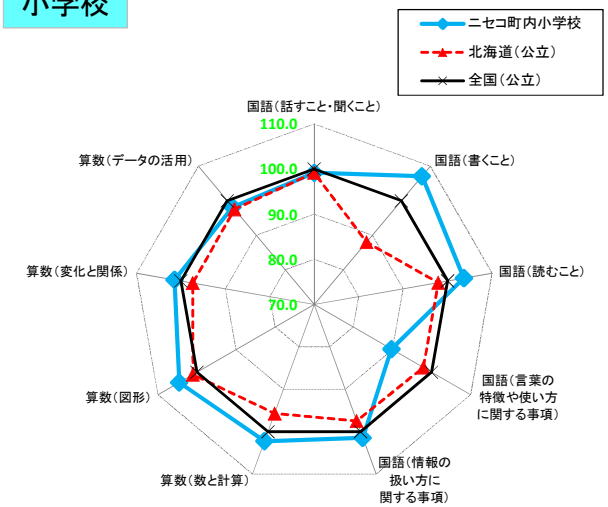
■ニセコ町内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：56人）（中学校数：1校 、生徒数：33人）

【教科全体の状況】

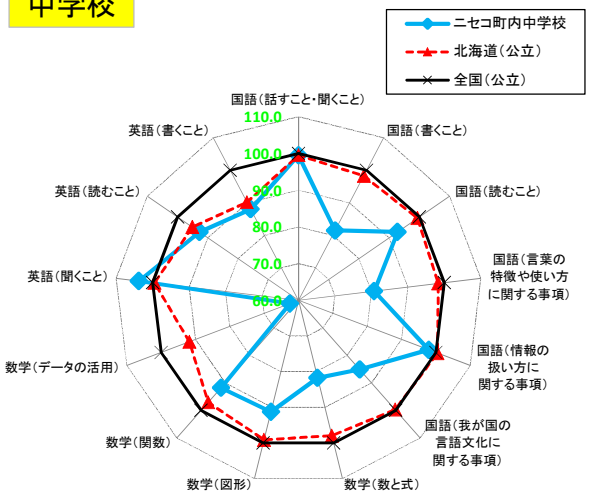
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	63
算数・数学	64	42
英語	－	44

小学校

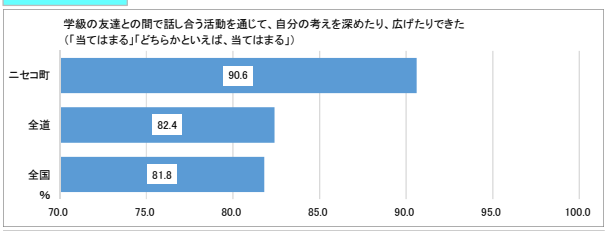


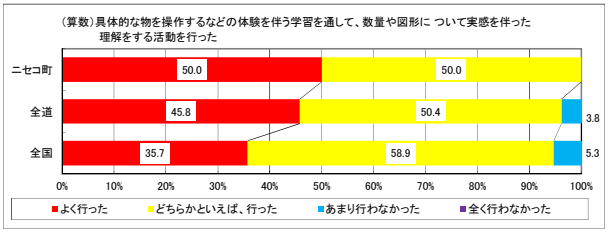
中学校



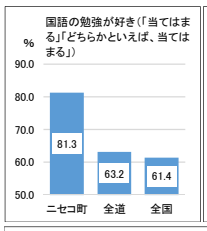
【質問紙の状況】

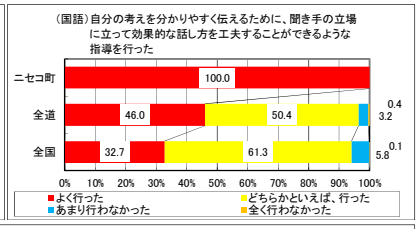
小学校

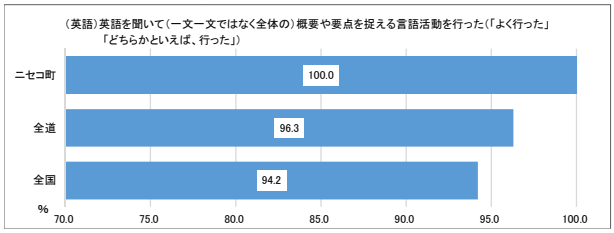




中学校







【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできるような指導を行ったことにより、国語の「書くこと」「読むこと」の領域、「情報の扱い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の「数と計算」「図形」「変化と関係」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	英語の授業において、英語を聞いて、一文一文ではなく全体の概要や要点を捉える言語活動を行ったことにより、授業改善が図られ、英語の「聞くこと」領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【ニセコ町の学力向上策】

◎　幼・小・中・高の連携強化や学習規律の統一など「ニセコスタイルの教育」の推進
◎　ICT機器を活用した児童生徒の主体的な学習活動や、学習意欲、思考力、判断力、課題解決力を育成する教育の展開
◎　外国人指導助手を活用した生きた英語による児童生徒のコミュニケーション能力と国際感覚の養成

【Webページ】
（R5.11掲載予定）

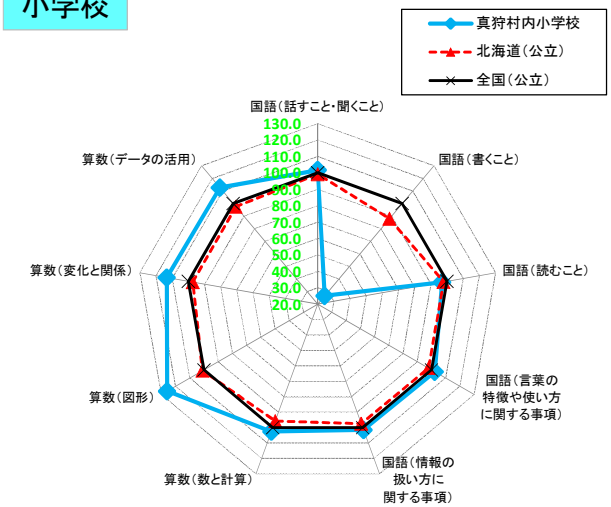
■真狩村内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：14人）（中学校数：1校 、生徒数：17人）

【教科全体の状況】

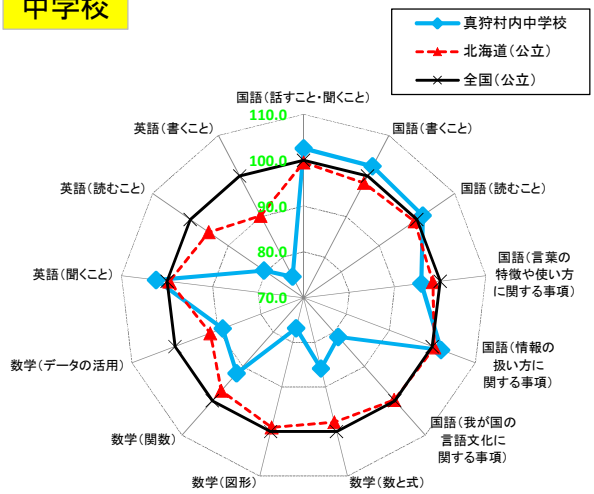
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	69
算数・数学	71	44
英語	－	41

小学校

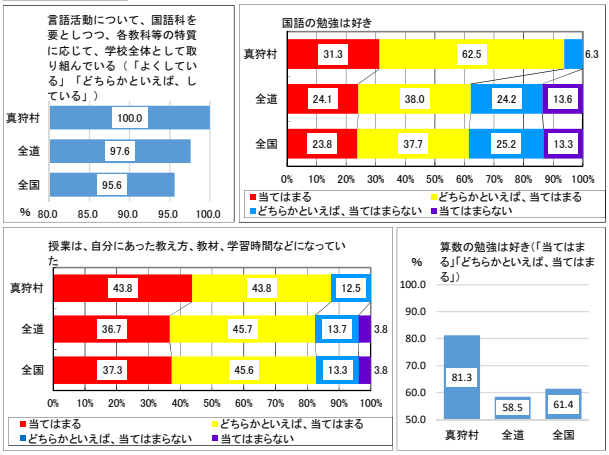


中学校

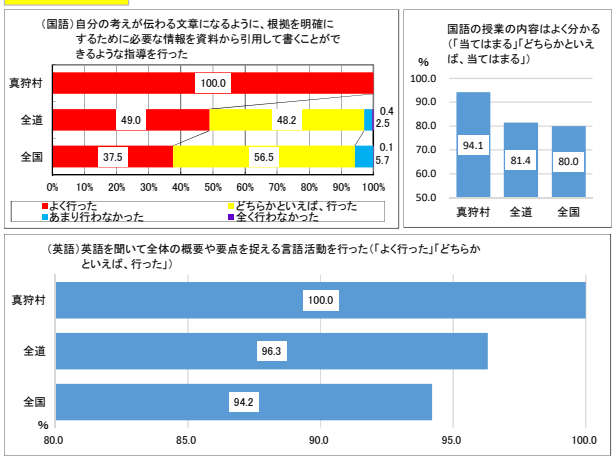


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域、「情報の扱い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
授業において、児童にあった教え方、教材、学習時間を意識して指導したことにより、算数の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	英語の授業において、英語を聞いて全体の概要や要点を捉える言語活動を行ったことにより、授業改善が図られ、英語の「聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【真狩村の学力向上策】

◎　1人1台端末環境と従来の指導方法を組み合わせた、子どもを主体とする問題解決的な学びの充実
◎　振り返りの重視による自分の学びと高まりを自覚できる授業の構築
◎　豊かな読書経験を生む環境整備による読解力を育む読書活動の推進

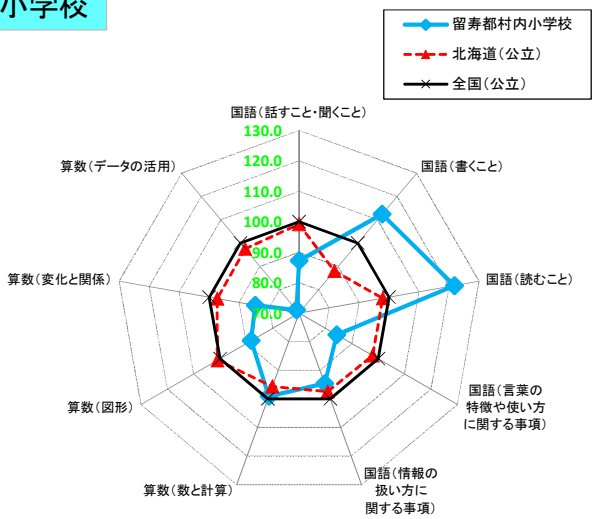
■留寿都村内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：10人）（中学校数：1校 、生徒数：13人）

【教科全体の状況】

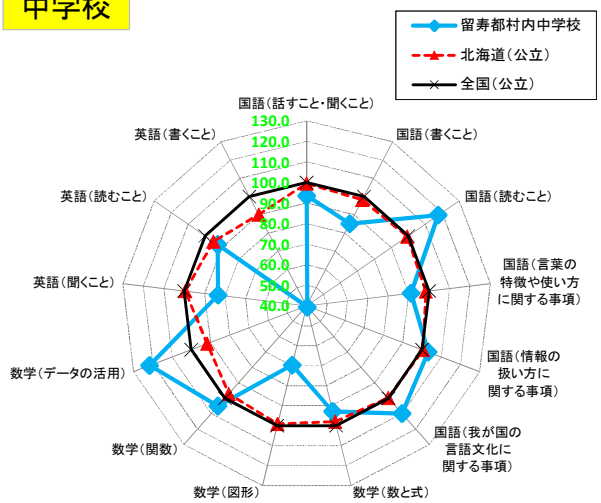
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	71
算数・数学	55	50
英語	－	37

小学校

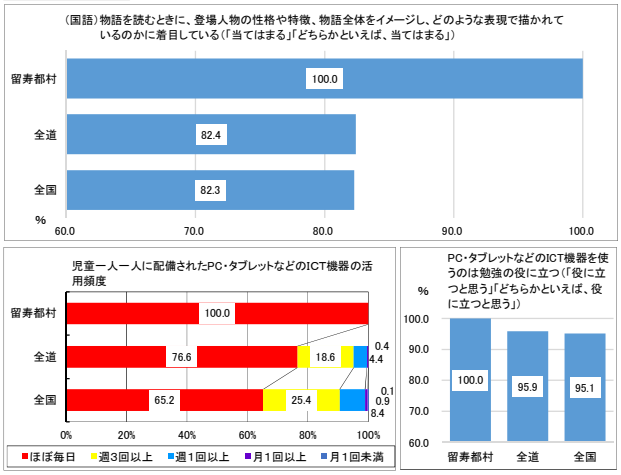


中学校

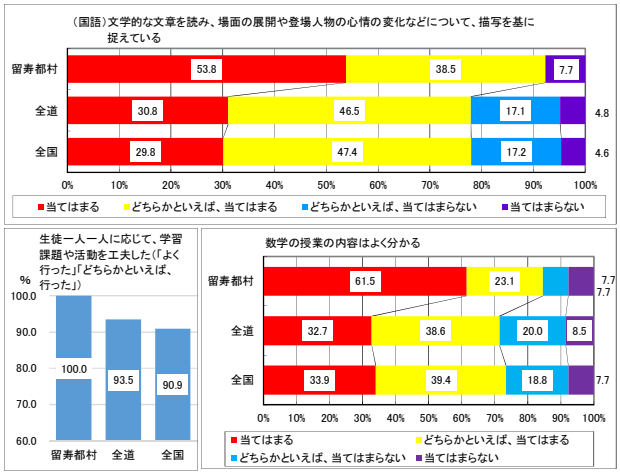


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目できるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「読むこと」の領域、「情報の扱い方に関する事項「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
PC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日使用したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「関数」「データ活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【留寿都村の学力向上策】

◎　「村内に学習塾がない」というハンディの解消に向けた大手学習塾との連携による「オンライン授業」の提供
◎　放課後学習支援事業「まなびサポート」の利用登録者を対象に北海道学力コンクールの受験費用の補助
◎　学びの充実と確かな学力の一層の定着に向けた家庭学習におけるデジタルドリルの活用の促進

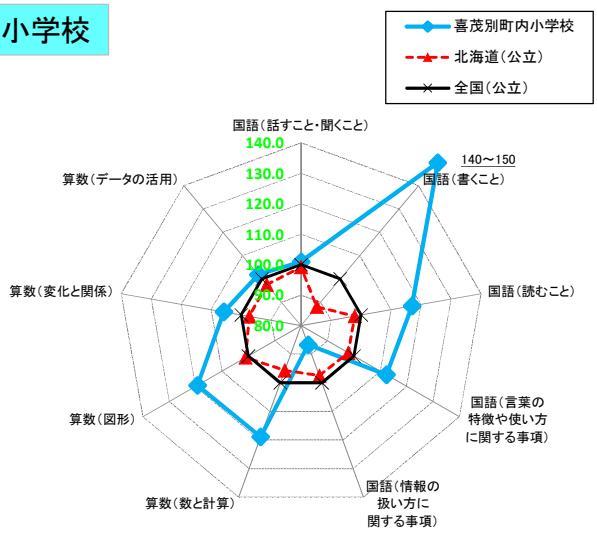
■喜茂別町内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：10人）（中学校数：1校 、生徒数：13人）

【教科全体の状況】

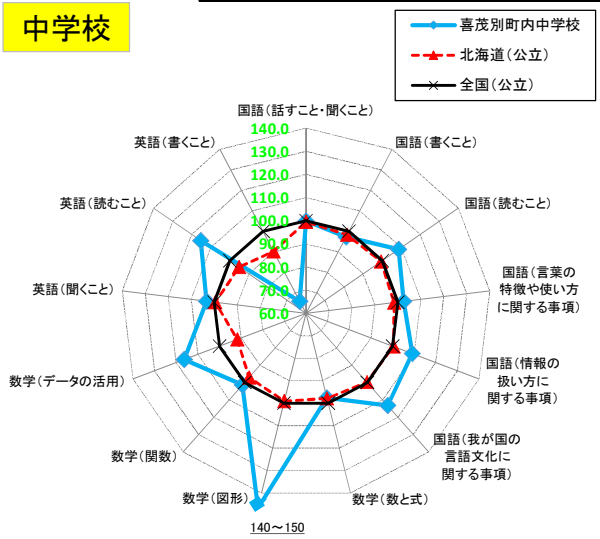
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	73	73
算数・数学	70	55
英語	－	47

小学校

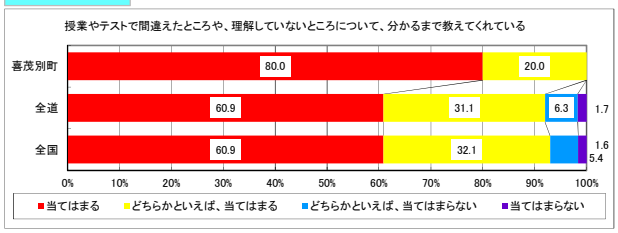


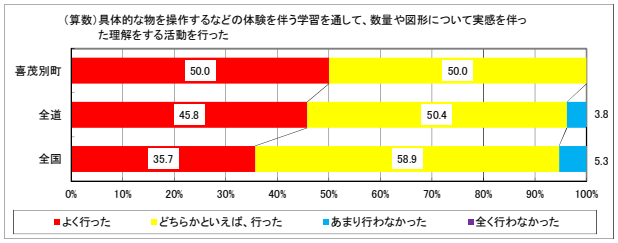
中学校



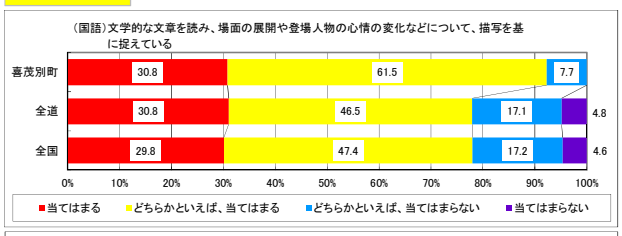
【質問紙の状況】

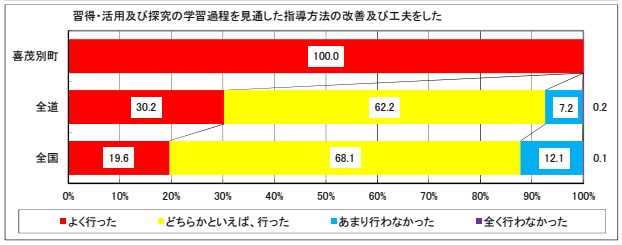
小学校





中学校





【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えたことにより、学習内容の定着が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえた指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、授業改善が促進され、数学の「図形」「関数」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【喜茂別町の学力向上策】

◎　確かな学力の育成に向けたICT機器やAIソフトの効果的な活用による「分かる喜びのある授業」づくりの推進
◎　小中連携による義務教育9年間を見通した一貫性、連続性のある指導の充実
◎　理科専科教員による乗り入れ授業の実施

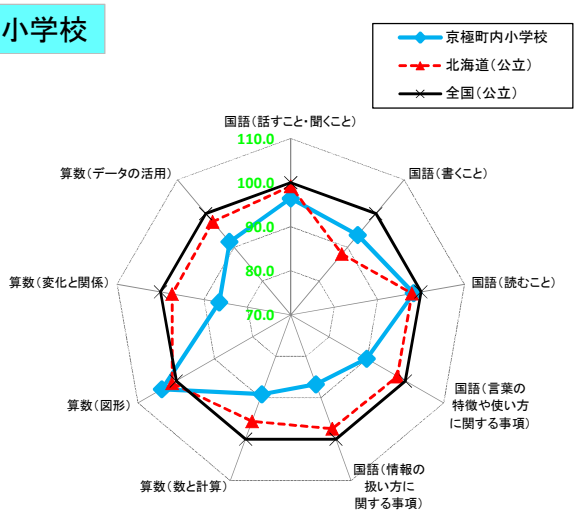
■京極町内の状況及び学力向上策　（小学校数:1校 、児童数:20人）（中学校数:1校 、生徒数:25人）

【教科全体の状況】

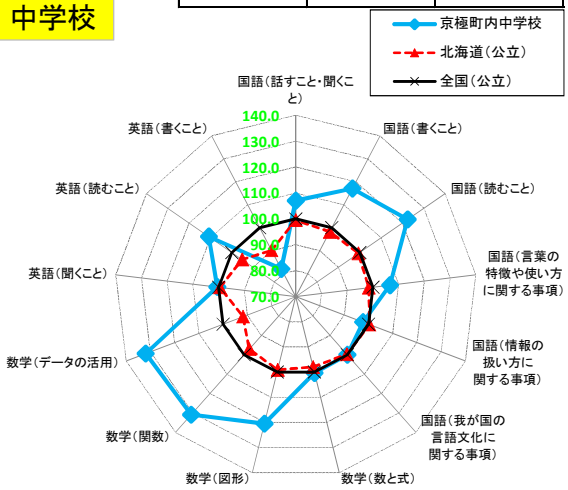
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	76
算数・数学	58	60
英語	－	46

小学校

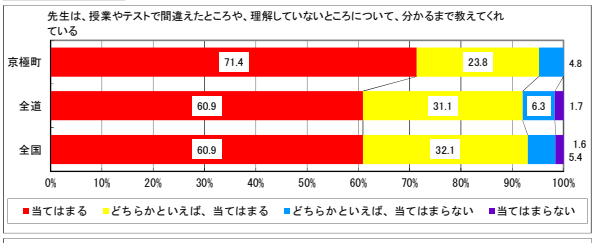


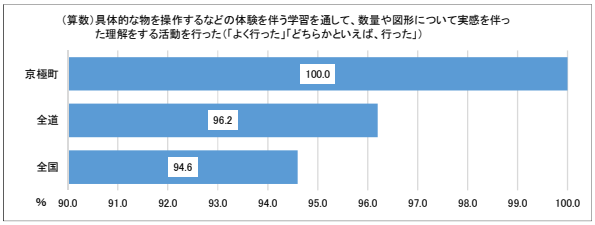
中学校



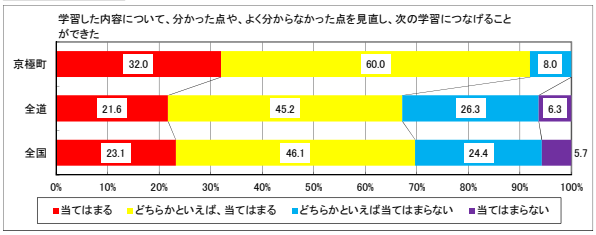
【質問紙の状況】

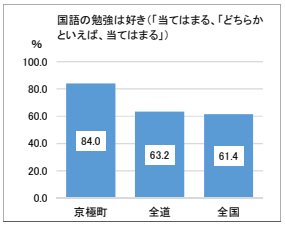
小学校

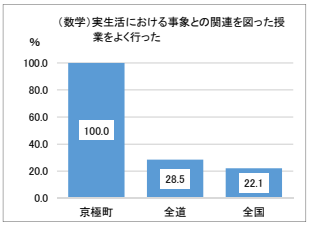




中学校







【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えたことにより、学習内容の定着が図られ、国語の「書くこと」「読むこと」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげたことにより、学習内容の定着が図られ、国語の勉強が好きだと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の「図形」領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【京極町の学力向上策】

◎ 「京極STANDARD」に基づき、小中連携して取り組む課題解決型授業の充実による義務教育9年間の学びの連続性の確保

◎ 加配教員・非常勤講師・特別支援教育支援員を配置し、児童生徒の教育的ニーズに配慮した学習活動の展開

◎ 基礎学力の確実な定着に向けた1人1台端末やデジタル教材を活用した授業の活性化と深化

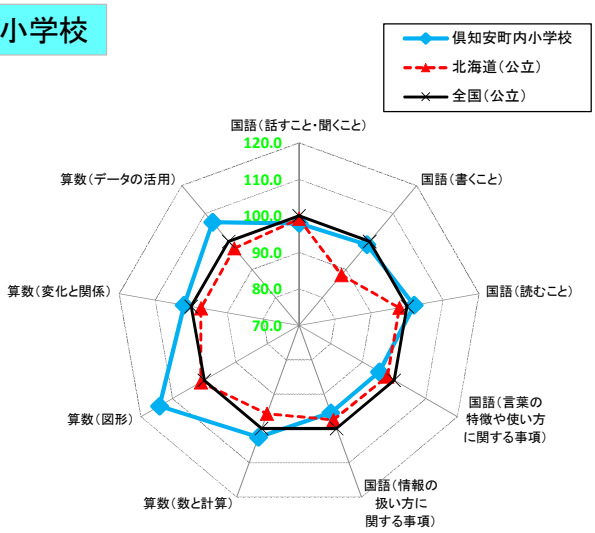
■倶知安町内の状況及び学力向上策　（小学校数:5校 、児童数:129人）（中学校数:1校 、生徒数:99人）

【教科全体の状況】

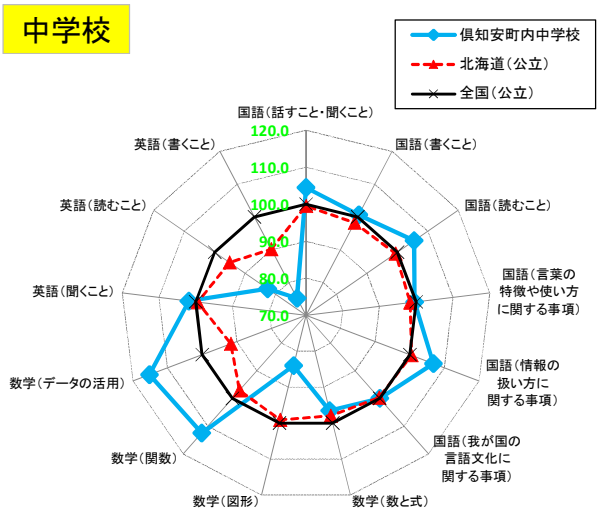
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	66	71
算数・数学	66	52
英語	－	41

小学校

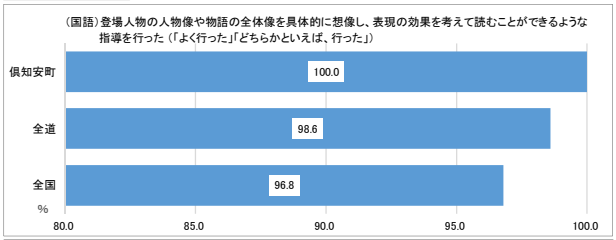


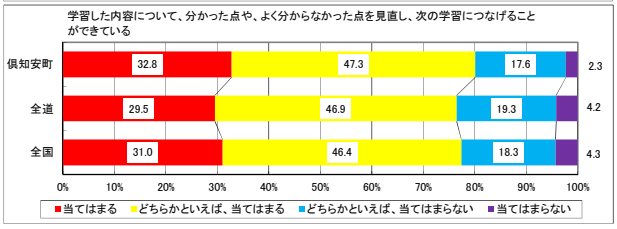
中学校



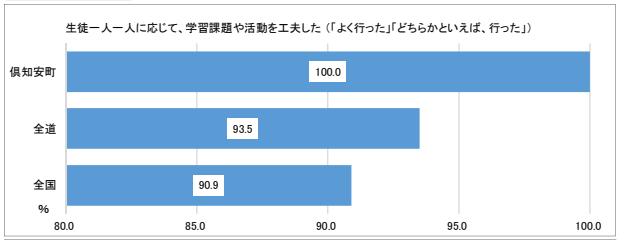
【質問紙の状況】

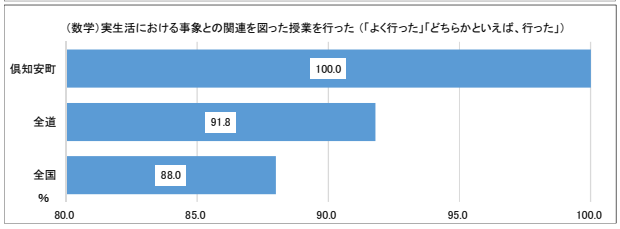
小学校





中学校





【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業改善が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域、「情報の扱い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の「関数」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【倶知安町の学力向上策】

◎　学校間連携による「学校力向上に関する総合実践事業」の推進
◎　「倶知安プラン」に基づいた学習規律・授業展開を統一する取組の推進

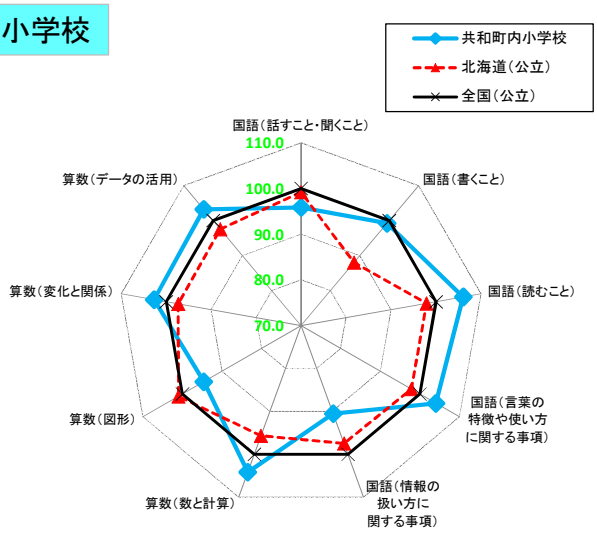
■共和町内の状況及び学力向上策　（小学校数:3校 、児童数:34人）（中学校数:1校 、生徒数:34人）

【教科全体の状況】

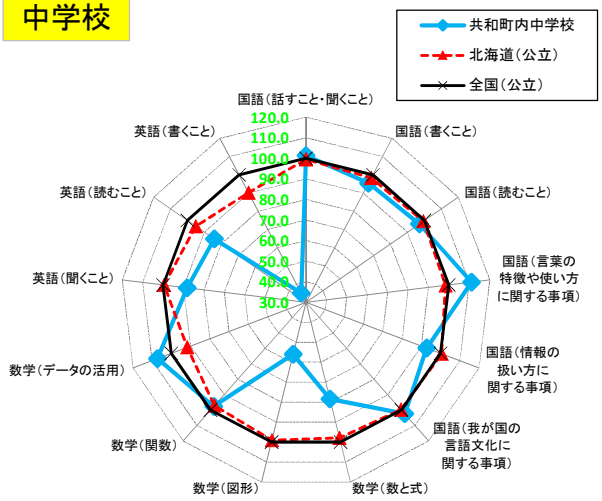
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	70
算数・数学	64	44
英語	－	36

小学校

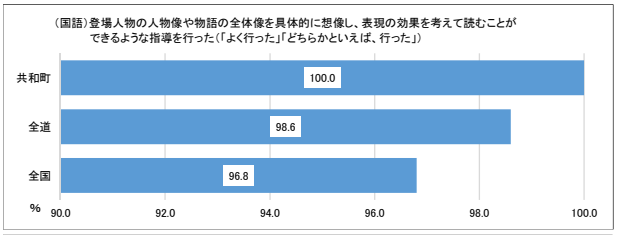


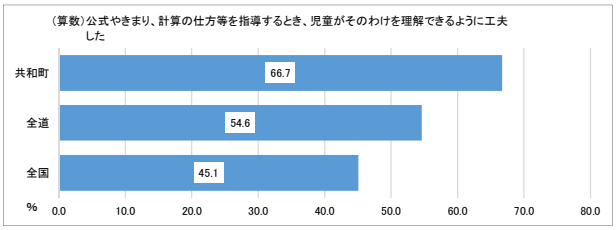
中学校



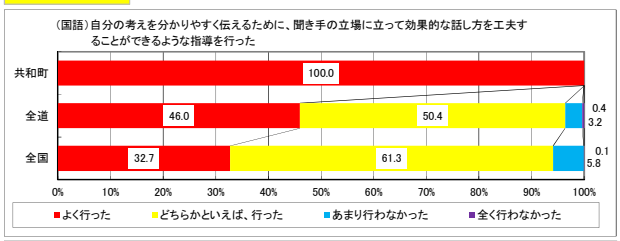
【質問紙の状況】

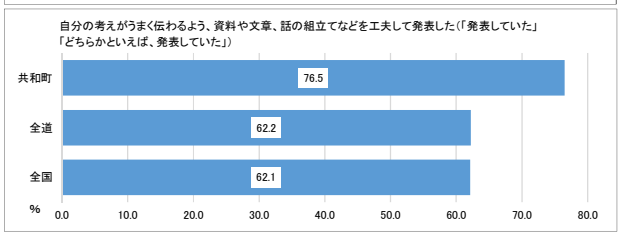
小学校





中学校





【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「話すこと・聞くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、授業改善が図られ、算数の「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	授業において自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表することができるようにしたことにより、授業改善が図られ、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【共和町の学力向上策】

◎　特別支援教育支援員及び外国語指導助手の配置による指導体制の充実
◎　各種検定試験に係る受検料の全額助成
◎　ICTを活用した基礎学力の定着・向上に向けた取組の推進

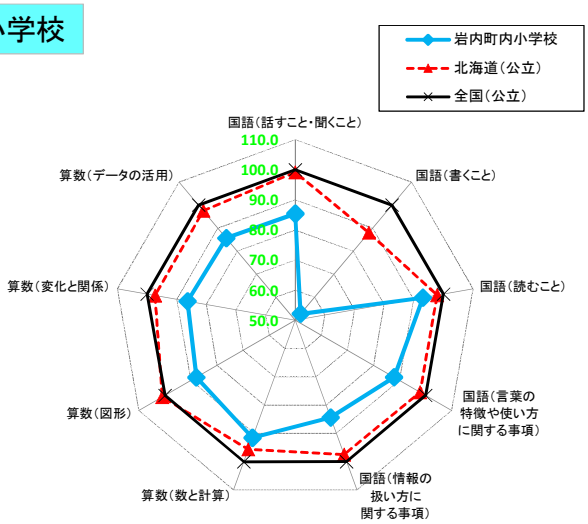
■岩内町内の状況及び学力向上策　（小学校数:2校 、児童数:85人）（中学校数:2校 、生徒数:70人）

【教科全体の状況】

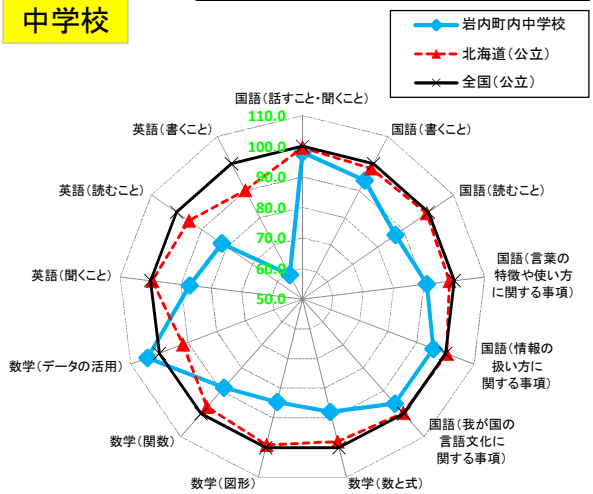
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	58	65
算数・数学	55	46
英語	－	37

小学校

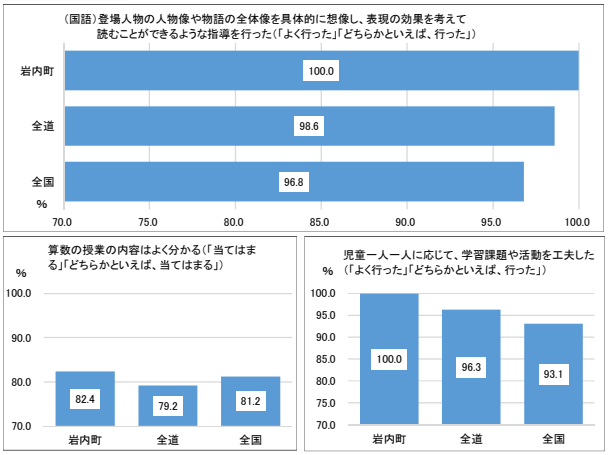


中学校

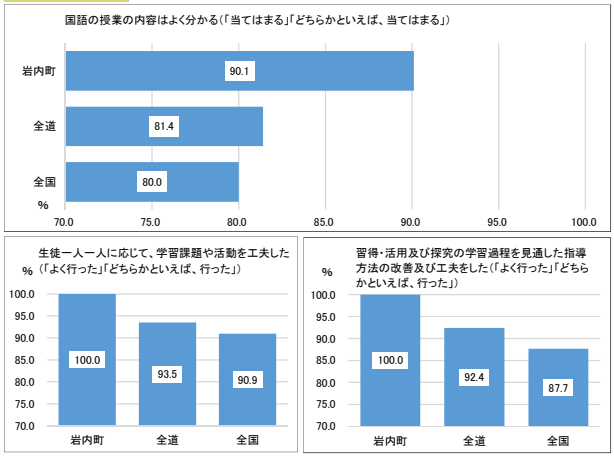


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国に近付いたと考えられる。	生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業改善が図られ、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業改善が図られ、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、授業改善が図られ、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【岩内町の学力向上策】

◎　小中一貫教育の推進
◎　複数教員の配置による習熟度別少人数指導の実施
◎　基礎学力の定着、向上を図るための学習指導員の配置
◎　ICTを効果的に活用した授業の実践

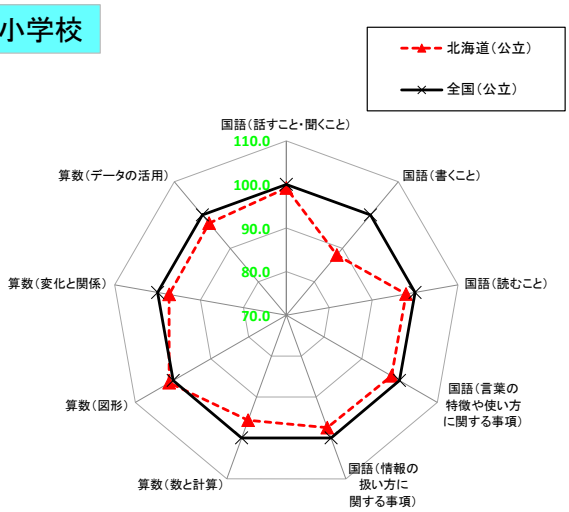
■泊村内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：8人）（中学校数：1校 、生徒数：9人）

※児童生徒数が少なく、個人の結果が特定される恐れがあるため、小・中学校の教科及び児童生徒質問紙のデータは掲載していない。

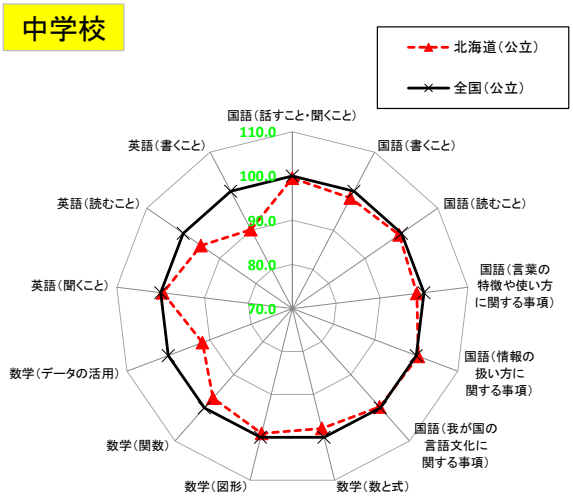
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

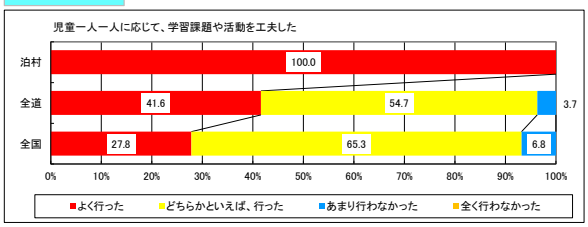


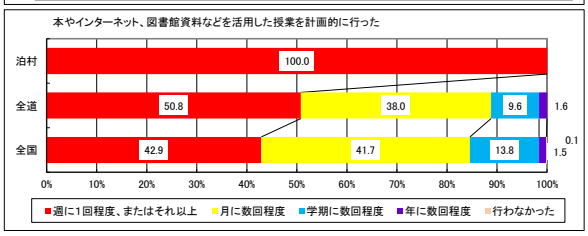
中学校



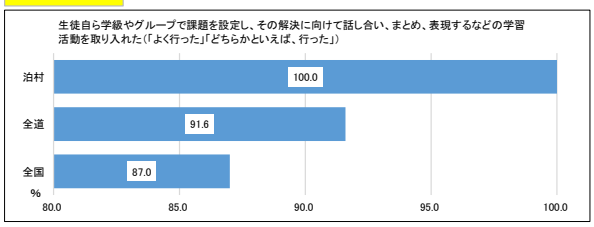
【質問紙の状況】

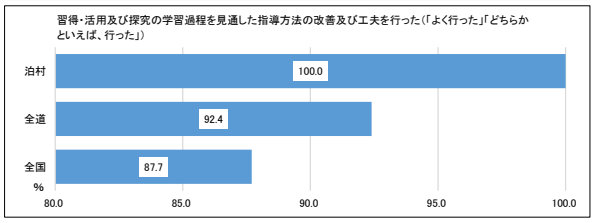
小学校





中学校





【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業改善が図られたと考えられる。	生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、授業改善が図られたと考えられる。
本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

【泊村の学力向上策】

◎　神恵内村立神恵内小学校との学校間連携による学習機会の拡充
◎　小・中学校教員の乗り入れ授業（国語・算数・数学）を通した、指導方法の研究と共有
◎　ICTを活用した中で「協働的な学び」と「個別最適な学び」の一体的な充実を目指した授業の推進
◎　長期休業中の学習会の設定と、学習内容の工夫・改善
◎　学ぶ意欲の育成を目指し、小・中学校で統一した義務教育9年間を見通した学習規律の展開

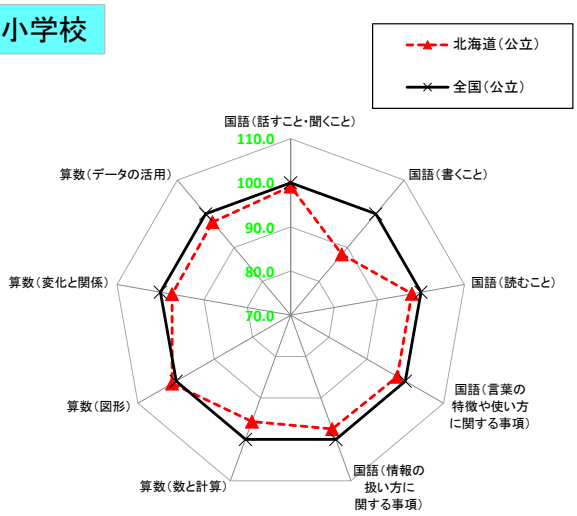
■神恵内村内の状況及び学力向上策　（小学校数:1校 、児童数:5人）（中学校数:1校 、生徒数:8人）

※児童生徒数が少なく、個人の結果が特定される恐れがあるため、小・中学校の教科及び児童生徒質問紙のデータは掲載していない。

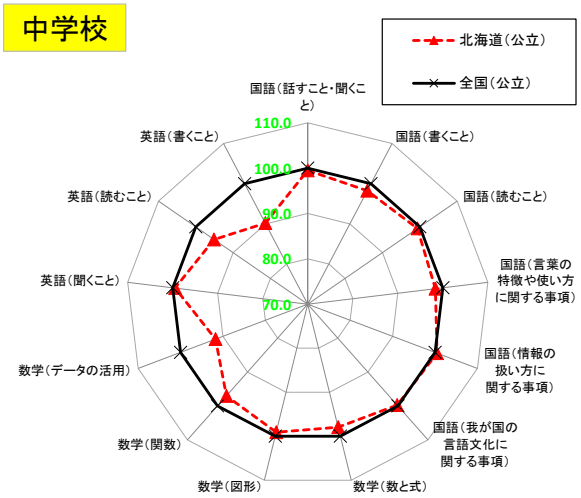
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

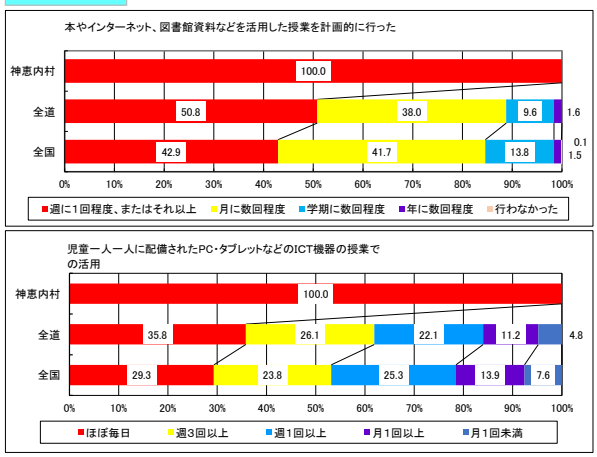


中学校

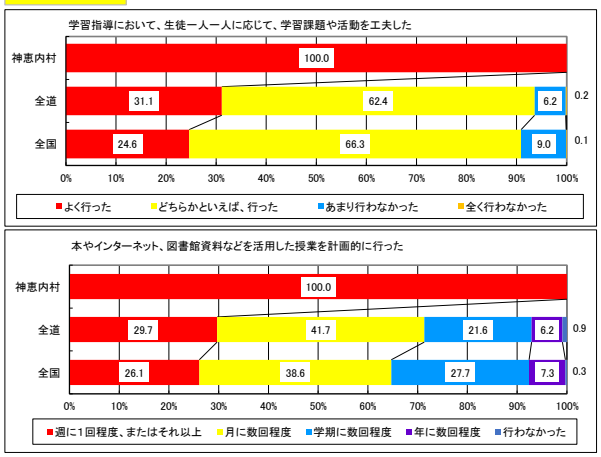


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。	学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、授業改善が図られたと考えられる。
授業において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、授業改善が図られたと考えられる。	本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

【神恵内村の学力向上策】

◎　泊村立泊小学校との学校間連携による学習機会の拡充
◎　小中連携により、義務教育9年間を見通した一貫教育の体制づくりの推進
◎　教育の質の向上を実現するためのICT教育の充実及びタブレット持ち帰り（デジタルドリル）による家庭学習の定着の推進
◎　特別支援教育体制を充実するなど、児童生徒に対するきめ細かな教育・指導体制の整備

■積丹町内の状況及び学力向上策　（小学校数：3校 、児童数：7人）（中学校数：1校 、生徒数：12人）

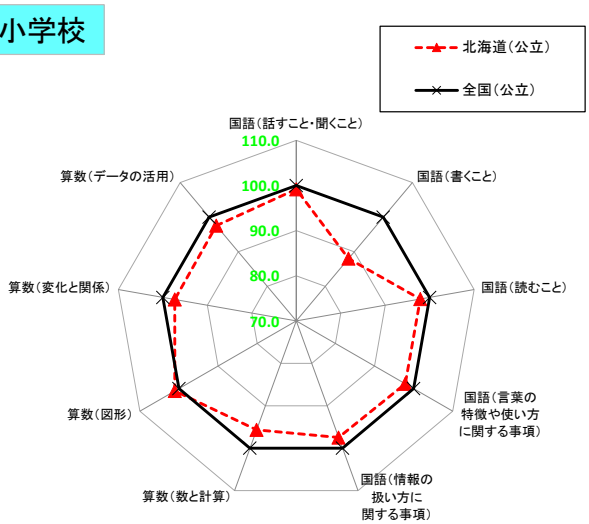
※児童数が少なく、個人の結果が特定される恐れがあるため、小学校の教科のデータは掲載していない。

【教科全体の状況】

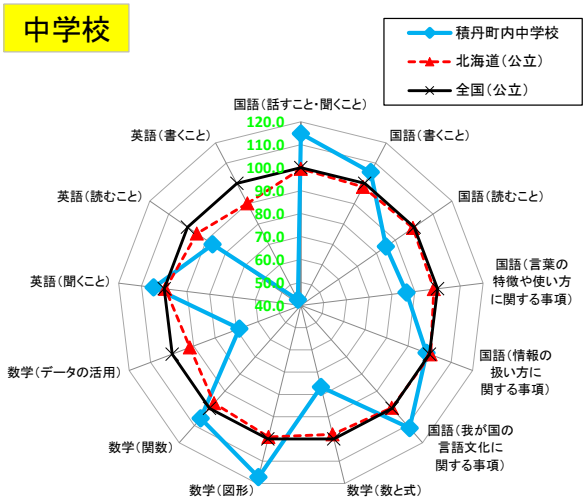
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	－	71
算数・数学	－	45
英語	－	40

小学校

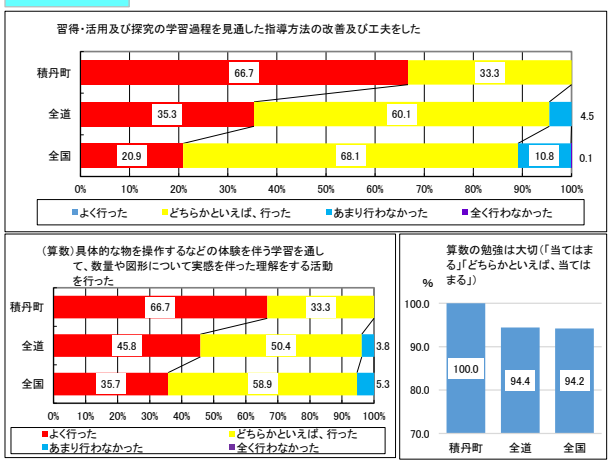


中学校

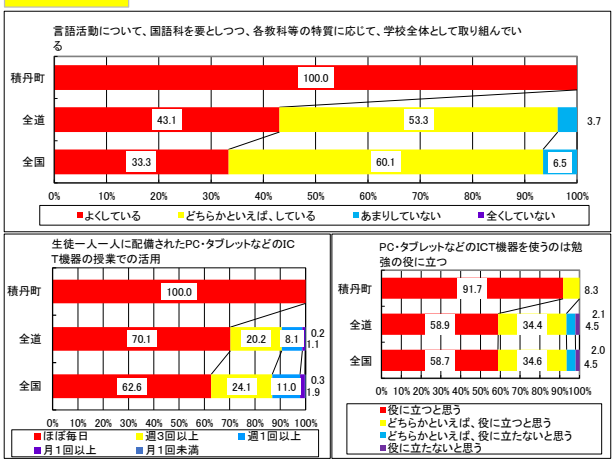


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。	言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組むようにしたことにより、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域、「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の勉強は大切であると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日活用することにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【積丹町の学力向上策】

◎　地域おこし協力隊を活用したB＆Gサポートゼミナール（中学生対象）を継続実施し、個別の生徒に特化した指導による学習習慣の定着と学力の向上に向けた取組の推進

◎　教育支援を必要とする児童生徒の指導の充実を図るため教育支援員を配置し、きめ細かな指導の継続

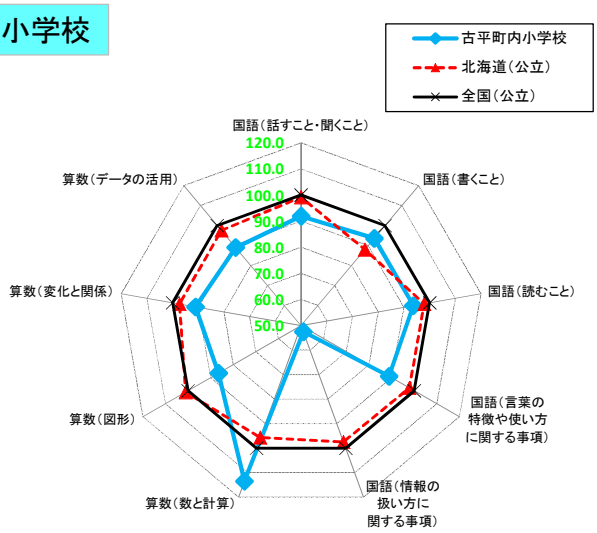
■古平町内の状況及び学力向上策　（小学校数:1校 、児童数:12人）（中学校数:1校 、生徒数:20人）

【教科全体の状況】

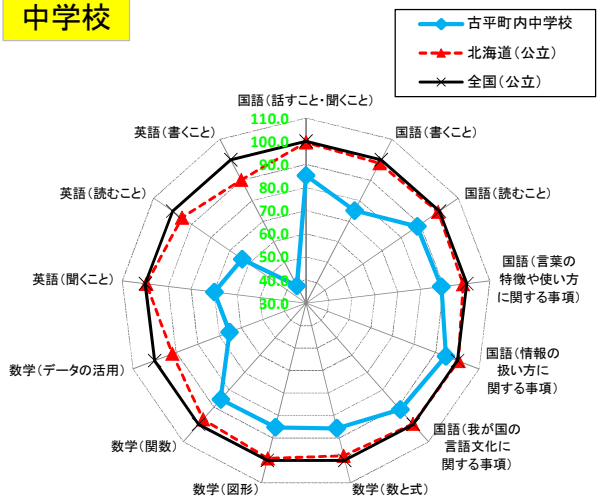
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	58	62
算数・数学	62	42
英語	－	29

小学校

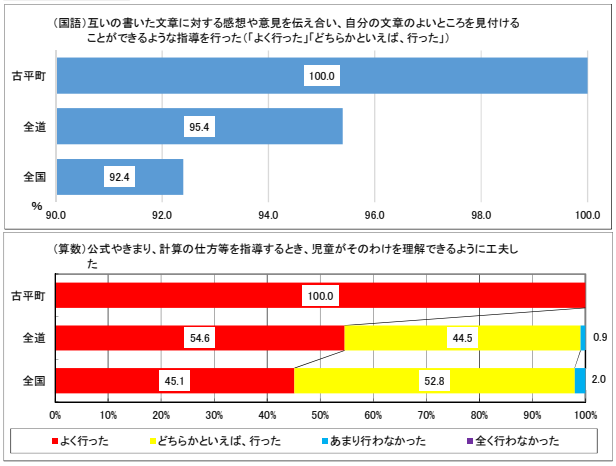


中学校

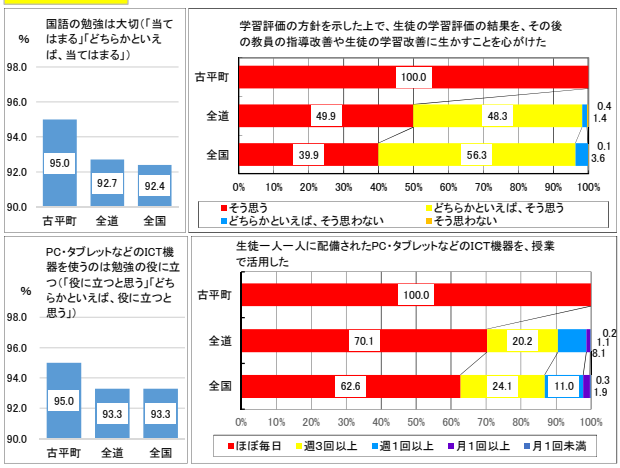


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全道を上回り、全国に近づいたと考えられる。	学習評価の方針を示した上で、生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけたことにより、国語の勉強は大切であると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫することにより、授業改善が図られ、算数の「数と計算」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日活用したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【古平町の学力向上策】

◎　加配教員を中心とした、児童生徒の課題の整理、共有及び授業や放課後指導方法の改善・充実
◎　義務教育9年間を見通した教育課程の編成及び授業改善の推進
◎　ICTを最大限に活用し、場面の視覚化や言葉の置き換え等を行いながら、未定着の学習内容について理解を深める取組の実施

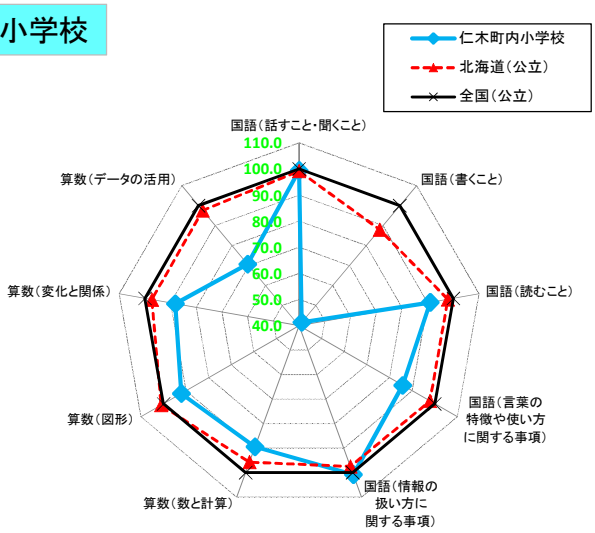
■仁木町内の状況及び学力向上策　（小学校数:2校 、児童数:18人）（中学校数:2校 、生徒数:23人）

【教科全体の状況】

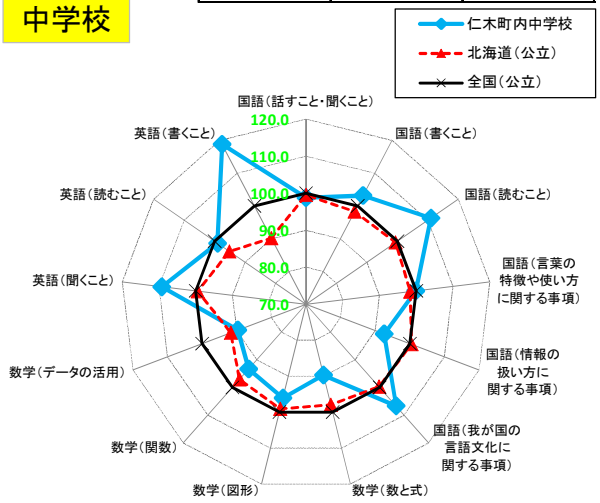
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	71
算数・数学	53	47
英語	－	49

小学校

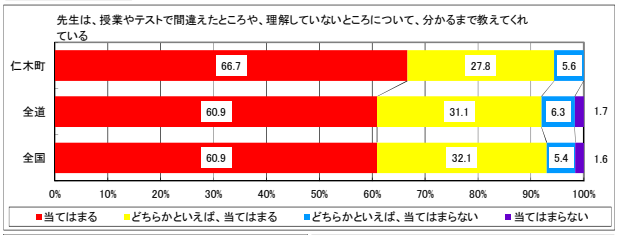


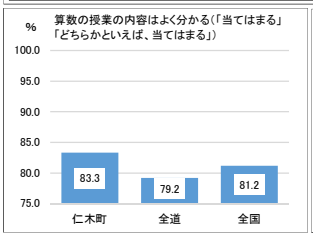
中学校

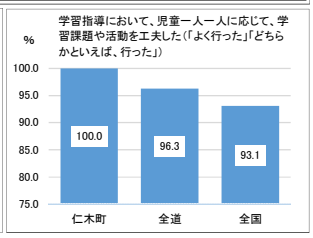


【質問紙の状況】

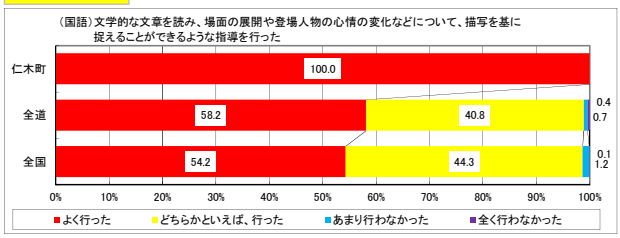
小学校

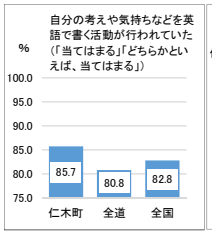


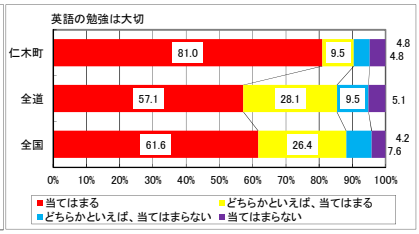




中学校







【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えるよう授業改善を図ったことにより、国語の「情報の扱い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
学習指導において、児童一人一人に応じて学習課題や活動を工夫したことにより、授業改善が図られ、算数の授業の内容はよく分かると回答した児童が全国及び全道を上回ったと考えられる。	英語の授業において、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動を行ったことにより、授業改善が図られ、英語の勉強は大切であると回答した生徒の割合が高まり、英語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【仁木町の学力向上策】

◎　児童生徒の学力向上や適応指導の充実を目的とした学力向上支援員の配置
◎　外国語指導助手（ALT）の活用
◎　教育的配慮が必要な児童生徒に対し、個々に応じたきめ細かな指導を目的とした特別支援教育支援員の配置

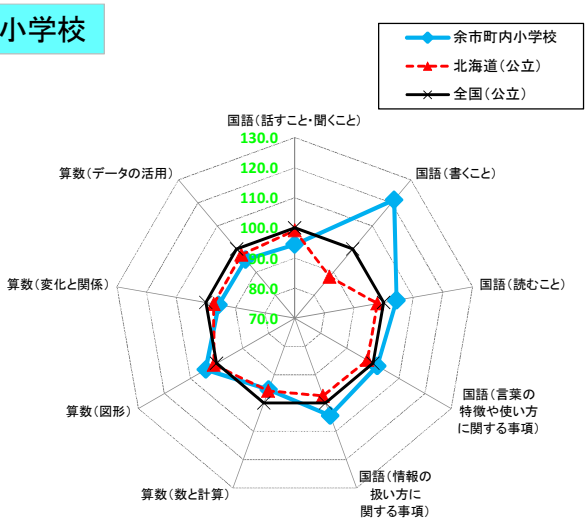
■余市町内の状況及び学力向上策　（小学校数:4校 、児童数:105人）（中学校数:3校 、生徒数:108人）

【教科全体の状況】

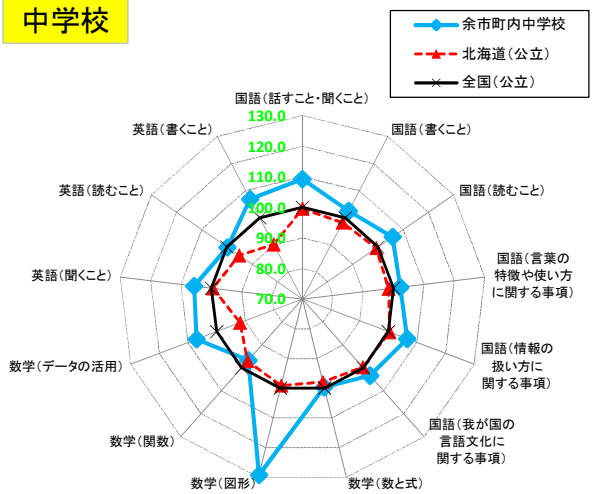
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	73
算数・数学	61	53
英語	－	47

小学校

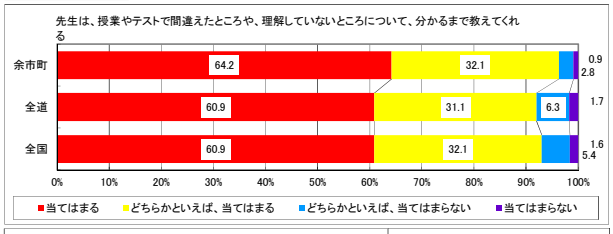


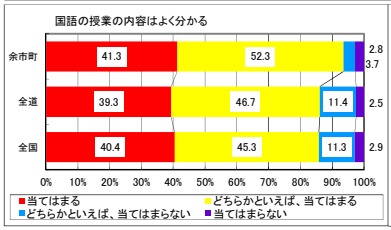
中学校

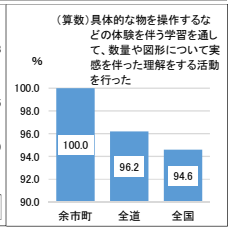


【質問紙の状況】

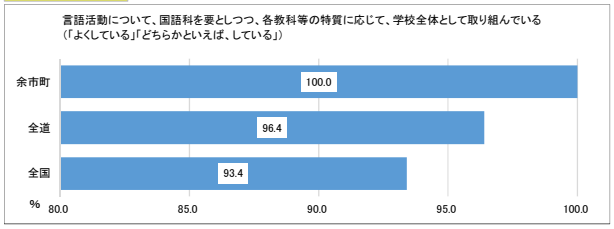
小学校

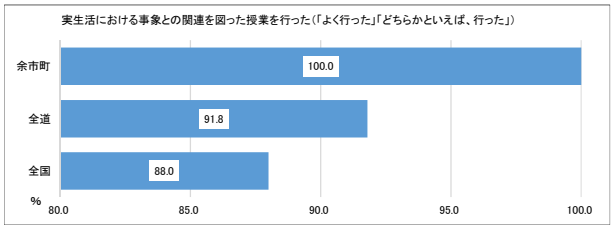






中学校





【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
町全体で、国語科の授業改善に関わる研修会を定期的に開催するとともに、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えたことにより、児童は、国語の学習内容の理解が深まり、国語の「書くこと」「読むこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、授業改善が図られ、国語の全ての領域と事項、英語の「聞くこと」「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【余市町の学力向上策】

◎ 地域全体の学力向上に向けた全小・中学校の参加による新しいかたちの学び授業力向上推進事業（道教委事業）定例報告会の実施

◎ ICT機器を活用した児童生徒の主体的な学習活動や、学習意欲、思考力、判断力、課題解決力を育成する教育の展開

◎ 外国人指導助手を活用した生きた英語による児童生徒のコミュニケーション能力と国際感覚の養成

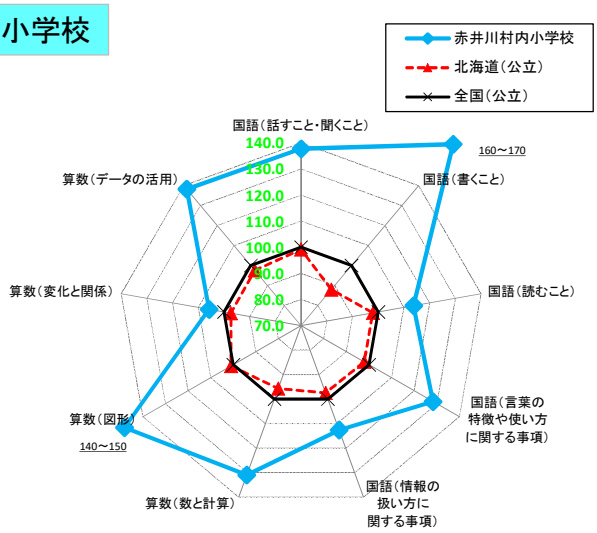
■赤井川村内の状況及び学力向上策　（小学校数:2校 、児童数:7人）（中学校数:1校 、生徒数:11人）

【教科全体の状況】

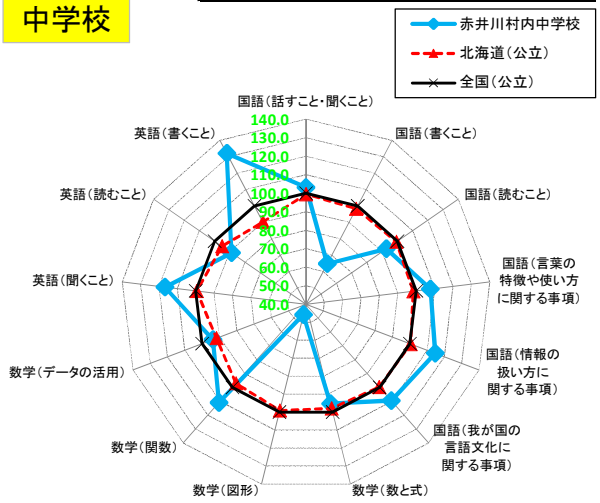
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	85	68
算数・数学	80	47
英語	－	49

小学校

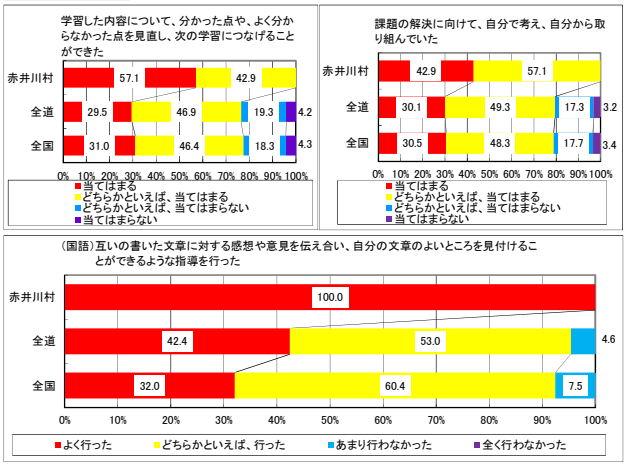


中学校

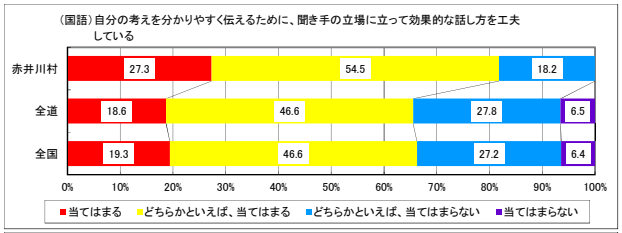


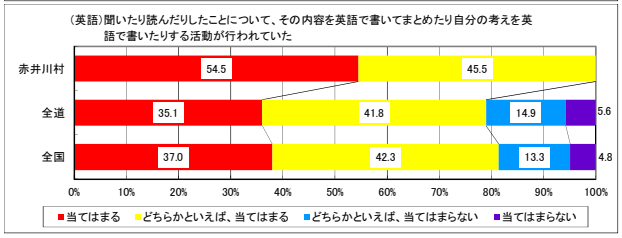
【質問紙の状況】

小学校



中学校





【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげるように指導したり、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むように指導したりしたことにより、授業改善が図られ、国語及び算数の全ての領域及び事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の「書くこと」の領域で、平均正答率が全国及び全道を大幅に上回ったと考えられる。	英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動を行ったことにより、授業改善が図られ、英語の「聞くこと」「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【赤井川村の学力向上策】

◎　学校運営協議会を通した学習の目的と方法を地域・保護者と共有することによる開かれた教育課程の推進
◎　小中連携推進委員会を通した村内小・中学校の学習規律や学習過程の統一
◎　1人1台端末を活用した分かる授業づくりの推進